創世ホール通信No. 302

催し案内＋文化ジャーナル
2020年３月１日発行■北島町立図書館・創世ホール
電話：088-698-1100　ファクシミリ：088-698-1180
〒771-0207　徳島県板野郡北島町新喜来字南古田91

新型コロナウイルスによる感染症拡大に伴うイベントの開催中止及び延期について

新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、創世ホール通信上で告知しておりました３月のイベントの開催を中止いたします。心待ちにしてくださった皆様にはご迷惑をおかけしまして大変申し訳ございません。

なお、各イベントの延期につきましては、開催日程が決まり次第、創世ホール通信及び北島町ホームページ上（https://www.town.kitajima.lg.jp/）でおしらせします。

開催中止及び延期

- **３．１１映画祭**
  ３月８日開催予定　→　延期（開催時期未定）
- **南伸宏（南伸坊）講演会**
  ３月２２日開催予定　→　延期（開催時期未定）
- **大地のうた９−希−**
  ３月２９日開催予定　→　延期（開催時期未定）
- **笑福亭たま・旭堂南湖二人会⑬**
  ３月２９日開催予定　→　延期（開催時期未定）

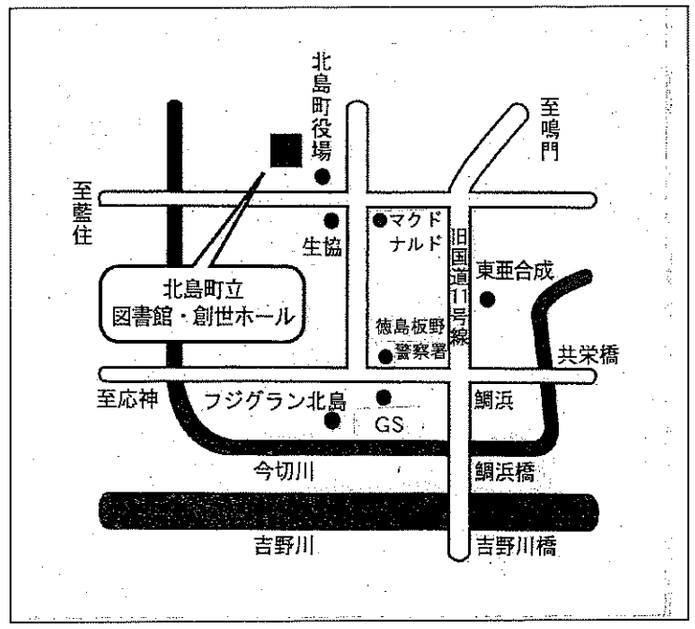
徳島クリエーターズマーケット vol.33

4月18日(土)・19日(日)　午前10時〜午後5時
※19日は午後４時まで

※新型コロナウイルスの感染拡大状況に応じて、開催日を変更させていただくことがあります。変更がありましたら創世ホール通信上及び北島町ホームページ上でお知らせします。

会場：2階　ギャラリースペース　入場無料
主催：徳島クリエーターズマーケット事務局
（川久保☎080-3162-2234）

■全国からモノづくり人が集う県内最大級のハンドメイドマーケット、今年も北島町で開催！■発起人は北島町在住のデザイナー・川久保貴美子さん。脱力系癒やしキャラ「ししゃもねこ」の生みの親として知られる超ユニークな作家さんです。■お気に入りの一品が見つかるかも！?皆様ご参集ください。



文◎化◎ジ◎ャ◎ー◎ナ◎ル

自主事業の延期について

■新型コロナウイルスの騒動を受けて、２月26日夕方北島町で会議があり、３月の自主事業がすべて延期になりました。

■３月８日の【３・11映画祭「チェルノブイリ」上映会】、22日の【南伸宏さん講演会「南伸坊が語る私のイラストレーション史」】、29日の【笑福亭たま・旭堂南湖二人会⑬】はすべて延期です。また、３月初めから予定していた講演会関連の特別展示(図書館カウンター前)も延期になります。２月末時点で、いずれも延期期日は未定。確定したら各種広報手段でお知らせします。

■南さん講演会の後援団体、特別協力団体、県内にある新聞社・放送局・タウン誌紙編集部などには、講演会を延期する旨連絡し、随時告知もしていただいています。引き続き情報発信して、催しへの来場予定だった全ての方に延期情報が伝わるよう努力したいと思います。

■この騒ぎが落ち着いたら、私は一度東京に出向いて、南さんにきちんとご挨拶しておこうと考えています。

「チェルノブイリ」試写会報告

■２月26日午後にマスコミと県内映画関係者向けに、３・11映画祭の内覧試写会をしました。今年の作品「チェルノブイリ」は、「ゲーム・オブ・スローンズ」で有名なＨＢＯ制作による非常に硬質で優れたドラマでした。社会派ですが、続きが気になるエンタテインメントにもなっていました。

■全５話・５時間ある作品ですが、３・11映画祭では、第１話と第２話の上映です。同作品は、米国ではエミー賞を受賞しています。残念なことにこの日の夕方の会議で３月の催しがすべてできなくなったのですが、コロナウイルス騒ぎが鎮火したら、宣伝期間を十分とって、上映会をします。お楽しみに。

「創世ホール通信／文化ジャーナル」300号達成の新聞報道

■「創世ホール通信／文化ジャーナル」通算300号達成の記事が、２月９日付け「徳島新聞」朝刊地域総合面、２月28日付け「朝日新聞」徳島版に掲載されました。「徳島新聞」は県北総局の松村万由子記者、「朝日新聞」は徳島総局の福家司記者の取材でした。また、松村記者による「徳島新聞」地域総合面のミニコラム「閑話小題」（２月21日付け）でも好意的にご紹介いただきました。ありがたいことです。

雑感あれこれ・近年の活動報告

■今月の紙面は、コロナウイルスのおかげで大幅に構成の変更を余儀なくされました。そこで、ときどき、ご質問を受けることがあるので、私(小西)の最近の立ち位置と、企画面での館との関わりについてメモしておきます。どうしても個人的なことにも触れざるを得ませんがお許しください。

■私は、普通に北島町職員（地方公務員＝町役場の職員）として税務課や住民課で働いてきた人間です。38歳のとき1994年８月に北島町立図書館・創世ホールに異動し、2003年４月から館長を務めました。2012年４月からは北島町教育委員会事務局長として本庁に異動しました。創世ホールは教育長部局の社会教育施設であるということで、教委での業務と並行して「創世ホール通信／文化ジャーナル」を毎号作り、主要な催しにも関わってきました。

■そして2016年３月末に北島町職員を定年退職し（誕生日が３月30日なので、満60歳と１日での退職。最後の肩書は町教育次長)、以後２年間は嘱託職員として、「～通信」の発行や催しに関与し、同時に『北島町史続編』編纂業務に関わりました。

■2018年３月末にはそれらもすべて終え、晴れて年金生活者になりました。保護司会の活動や農作業や孫のお守りや犬の散歩や週２日の夕食のおかずづくりや北島町社会福祉協議会主催の「男の料理教室」受講などを行ないつつ、「文化ジャーナル」執筆＆版下制作と、「通信」の印刷・発送、ホールの主要企画（創世ホール講演会、遠藤ミチロウ、北島トラディショナル・ナイト、坂田明、たま・南湖二人会、創世ホール名画鑑賞会、３・11映画祭など）への関与をしてきました。

■2018年から私は、北島町立図書館等協議会委員（図書館法に基づく組織、その後の総会で役職は委員長）になりましたので、その立場で館に関わりましょうということになったわけです。

■2018年秋（たぶん10月頃)、全国公立文化施設協会の関係者の方（岸正人さん）からご連絡を受けました。2019年２月に開催する文化庁委託事業、文化庁・全国公立文化施設協会主催の全国劇場・音楽堂等職員研修会のアートマネジメント講座での１つの分科会の講師の仕事でした。私の分科会のタイトルは、「中小規模館における予算ゼロのおもしろ事業展開」という非常にくだけたものでした（小西の命名ではありません)。もう一人の講師は長崎のチトセピアホールの出口〔いでぐち〕亮太館長、司会進行が豊島区芸術文化劇場準備室課長の岸正人さんでした。

■後で知ったのですが、私を引っ張り出したのは、出口さんのようでした。出口さんはまだ30代の大変お若い方ですが、非常に優秀で、東京学芸大で博物館学を専攻された人です。小西が昔「朝日新聞」の朝刊オピニオン面で活動が取り上げられた記事（取材執筆は萩一晶記者、現在は金沢支局）をご覧になり、関心を持たれたということでした。

■2019年２月６日午後、国立オリンピック記念青少年記念総合センターのセンター棟101号室（200名）で、私は自分の持ち時間の終わりに地域と密接に結びついた優れたオリジナル楽曲の事例として、デイヴ・シンクレアさんの「マキノ」（滋賀県高島市マキノに捧げられた曲。ヴォーカルは浦千鶴子さん)、坂上真清〔さかうえ・ますみ〕さんの「ノース・アイル・タウン〔北の島の町〕」（北島町に捧げられた器楽曲。演奏はスリーラビリンス）の冒頭部分をそれぞれ会場内に流し、皆さんに聴いていただきました（１分半から２分)。客席には、河上進氏（筆名＝南陀楼綾繁氏）の姿もありました。この講座の経験は大きな肥やしになりました。

■その講座の直後だったと思うのですが、藍住町の副町長さんから携帯電話に連絡があり、相談したいことがあるということで、藍住町役場に出かけました。用件は藍住町に新しく出来る文化ホール（保健センターや社会福祉協議会の事務所を備えた複合文化施設）が11月に開館するので、５月から翌年３月末まで企画運営指導員として来てくれないか、というものでした。藍住町は隣町で、同施設に関しては何度か職員の方々が北島町に相談に来られ、助言をさせていただいた経緯もあり、私も行く末が気にかかっていました。

■それで、2019年５月の連休明けから週４日勤務の嘱託職員として藍住町総合文化ホール事務所で働くことになったのですが、とても気持ちの良い職場でした。まず歓迎会で判明したのが、出席者６名の内４名が「トクサツガガガ」を見ていたことでした。そして私の隣の席には、ガンダム愛好青年が座っています。人生の終盤に全くストレスなく働けたことは、幸福なことでした。

■藍住町で私は、北島町方式による（殆ど予算を使わないやり方による）新年度事業を提案させていただきました。具体的には、３つの映画会―《徳島映画センター》と組んだ藍住シネマサロン（「長いお別れ」、９月19日)、《太陽と緑の会》と組んだ柳澤壽男福祉ドキュメンタリー映画祭「そっちやない、こっちや」上映会（８月30日)、細川正樹監督作品「ぼに～迎火～」上映会（９月22日)。２つのジャズの催し―日野皓正クインテット（４月24日)、坂田明グループ（梵人譚、９月11日）と言ったところです。

■４月以降は、北島同様、ボランティアによるサポート活動ですが、藍住町芸術文化鑑賞事業実行委員会の委員として残る予定なので、立場的にも藍住町のホール事業に関わることができるわけです。藍住町は、ＮＨＫ交響楽団の室内楽アンサンブルとのつながりや、町出身の狂言師の方とのつながりを上手に生かして、メインのイベントを継続してやっていけると思います。良いスタッフが揃っています。私は、文化活動の幅が広がるような路線を提案実践するサポート活動をして行けたらよいと考えています。

■私の人生は、間違いなく黄昏の時期に入りましたが、鳴門市大麻町の吉祥寺〔きっしょうじ〕の若きご住職さんがアイリッシュ音楽をお堂で主催したり、徳島市の仏壇メーカーの若社長が元ヘンリー・カウや元エルドンのメンバーのコンサートを徳島市内のライヴハウスで主催するなど、思わぬ場所から後継者が現われ始めた、という認識を強く持っています。両名とも、非常に親しい同志的存在です。また、最近映画上映会の打ち合わせで知り合った細川正樹監督（板野町大寺）は、なんとハレルヤズや頭士奈生樹〔ずし・なおき〕や渚にてを普通に愛好しているような人で、おまけにジョナス・メカス直系の弟子でした。まだまだ徳島も捨てたものではないというのが、最近の私の感想であり心境です。(一部敬称略／20200305脱稿／小西昌幸)